

消防団員の思い

消防団活動を通して地域の役に立ちたい。



袋井方面隊第8分団 団員
木根淳之さん(三沢)

今年の4月から袋井方面隊第8分団に入団しました。過去に消防団活動をしていた父から活動の大変さ、楽しさなどを聞いていましたが、地元の方々とのつながりが増え、少しでも地域の役に立てればと思い入団を決意しました。入団して間もなく行われた訓練礼式査閲大会に向けての訓練はつらく、正直何のために訓練しているのかわかりませんでした。しかし、分団員40人全員で気持ちを合わせて臨んだ大会当日、「みんなで心を一つにして一つの音を奏できるように」と言われた意味が分かった気がします。入賞して全員で分かち合った喜びと感動は、今でも忘れません。

今は少しずつではありますが、ポンプ車の操作方法、火災現場において消火するための手順や注意事項を先輩から教わっている最中です。幸いなことにまだ実火災へ出動したことはありませんが、火災やその他の災害において学んだことを生かし対応できるように多くのことを吸収していきたいと思っています。

あと数か月で先輩が入団してきます。先輩たちに少しでも多くのことを教えられるよう、これからも積極的に消防団活動に参加していきたいと思っています。



ラッパ隊 隊長
丹羽正樹さん(下町)

ラッパ隊は年間を通じて式典での吹奏やドリル演奏を行うため、各分団より選出された団員が集まり、各分団の訓練に加え、ラッパの訓練を行っています。

ラッパ隊員は、訓練を通じて、他分団員との交流や情報交換ができ、分団の枠を越えたつながりを築くことができます。

ラッパ隊でしか得られない貴重な経験。



ラッパ隊 指揮者
浅井基裕さん(西区)

今年度は、8月に行われた県消防操法査閲大会という目標に向かって、ドリル演奏の訓練を行いました。

3か月という短い期間でドリル演奏を完成させなくてはならないため、隊長を中心に厳しい訓練を重ね、当日はラッパ隊員が一致団結して、最高のドリル演奏を披露することができました。



特集

私たちのまちを守る消防団

消防団活動展で 詳しい活動内容を紹介



袋井市消防団袋井方面隊、浅羽方面隊の各分団の活動などを写真やパネルなどで紹介します。

消防団の活躍を是非ご覧ください。

期間 12月10日(月)～18日(火)

場所 市役所2階市民ギャラリー

消防団活動に ご協力をお願いします

以前は、自営業や農家などの団員が大半を占め、分団によっては、希望しても人数が多くて入れないという状況でした。現在では、団員のほとんどが会社員です。消防団世代の人口が減少しているうえ、価値観が多様化したこともあって、団員の確保が大変難しくなっているのが現状です。

火災や水害の被害から率先してまちを守る消防団。東海地震も心配される今、改めて消防団の意義を考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

団員の確保が難しくなっている現在、団員の皆さんはもとより、家族や会社など、団員を取り巻く皆さんの消防団活動への理解が必要です。

消防団を運営するための環境づくりに市民の皆さんのご協力をお願いします。

消防団に入団を希望される方は、地域の消防団または、防災課防災係消防団担当(袋井消防本部警防課内)(☎44-6092)までご連絡ください。

たくさんの仲間たちに支えられています。

分団長になって半年余りが過ぎ、分団長の責任の重大さを身をもって体験しました。地域住民の生命、財産を守ることに、また、分団員の安全の確保といった様々なことに気を遣わなければなりません。

私たち浅羽方面隊第5分団は定員35人に対し、23人という少ない人数で分団活動を行っています。しかし、少ない人数でも、活動内容は他の分団と同じです。

そこで、まず分団のまとまりを大事にして一枚岩でも何事も行っていくよう心掛けました。幸いなことに同級生も多く、役割を分担しながら協力してくれ、また、分団員一人

ひとりも活動を理解し協力してくれません。

分団は分団長一人の力では何もできません。サポートしてくれる仲間がいて初めて分団の活動が成り立つものだと実感しています。

分団長は、一生に一度しか経験できません。この貴重な経験は私にとって大変プラスになると思います。これからは、団員確保など課題はありますが、分団長として残された期間を一生懸命頑張り、後輩たちに良い形で引き継いでいきたいです。



浅羽方面隊第5分団 分団長
よしひろ
小島義弘さん(濃中)